

当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画

平成 20 年度

当別町地域公共交通活性化協議会

平成 20 年 3 月

平成 20 年度 当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画 目次

1.	コミュニティバス実証運行	
1. 1	当別ふれあいバス実証運行事業	1
2.	設備の充実	
2. 1	バス亭及び待合所の設置	2
2. 1. 1	待合所の設置	
2. 1. 2	バス停留所の設置	
2. 2	車内アナウンスシステムの整備	3
2. 3	公共交通情報提供システムの整備	4
3.	利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供	
3. 1	モビリティマネジメントの実施	5
3. 1. 1	小中学生向けモビリティマネジメント	
3. 1. 2	大学生向けモビリティマネジメント	
3. 1. 3	住民向けモビリティマネジメント	
3. 1. 4	ニュースレターの発行	
3. 2	BDF回収システム導入	6
3. 3	感謝ツアー等利用促進事業	6
3. 4	車両ラッピング・移動展示会の実施	6
3. 5	交通マップの作成	7
4.	調査・研究等	
4. 1	OD・アンケート調査等事業	7
4. 1. 1	パーソントリップ調査	
4. 1. 2	OD調査	
4. 2	物流システム導入調査	7

1. コミュニティバス実証運行 (43,600千円)

1.1 当別ふれあいバス実証運行事業

昨年実施した当別ふれあいバスの実証運行を参考に、次のことを実施する。

- ・ レールアンドバスライド+DRT型バスシステムの検証

4月から基礎的運行路線の他に、DRT型深夜バスの新路線「SuiSui ふれバ」の実証運行を行う。JR学園都市線の当別行の最終は23時札幌発が最終だが、その後の23時58分札幌発あいの里公園行の最終便に合わせて予約型のバスを走らせることで、バスとJRの連結を強化し、利用者の利便性の向上を図る。

- ・ 交通空白地への路線構築と空白時間帯のダイヤ充実

基礎ルート・ダイヤの充実を図るとともに、新規利用者の開拓や、交通空白地の解消とバスとJRの連携を図るため、夏に実施する利用動態調査の結果をもとに、秋頃を目標にダイヤ改正を実施する。

通常路線概要

路線	平日～9系統86便、土日祝日～2系統 31便
運賃・応援券	運賃 1路線200円(小学生、障害者半額)
	応援券 1ヶ月4,000円、3ヶ月10,000円、6ヶ月16,000円 (小中高校生、障害者、介護人半額)

SuiSui ふれバ概要

路線	金曜日、土曜日のみ運行、20時までに予約 乗車はJRあいの里公園駅のみ、降車はバス路線のバス停すべて
運賃	1,000円(応援券利用者は500円)

運行系統・運行回数

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	JR石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.5 km	4便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 (降順コース)	JR石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.5 km	4便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	JR石狩当別駅南口 ～ロイズふと美工場	12.0 km	6回	6回	
あいの里線	JR石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	17.5 km	8回	8回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	JR石狩当別駅南口 ～北海道医療大学	4.0 km	12回	14回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	JR石狩当別駅南口 ～みどり野会館	9.0 km	3回	3回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	JR石狩当別駅南口 ～青山会館	15.5 km	5回	5回	
お買い物ふれバ (Aコース)	JR石狩当別駅南口 ～春日町～ラルズストア	4.0 km	2回	2回	土曜・日曜・ 祝日 運休
お買い物ふれバ (Bコース)	JR石狩当別駅南口 ～下川町～ラルズストア	4.0 km	2回	2回	土曜・日曜・ 祝日 運休
SuiSui ふれバ	JRあいの里公園駅 ～区域内運行	区域内 運行	0回	1回	金曜・土曜 のみ運行

2. 設備の充実 (19,900千円)

2. 1 バス亭及び待合所の設置

2. 1. 1 待合所の設置

現在、当別ふれあいバスの停留所に待合所が設置されているのは1箇所のみである。バスの利便性の向上を図るとともに、デザイン性の高い待合所を設置することで、バスのイメージアップを図る。

風雨だけでなく雪を防ぐこと、バスからの視認性が高いことを考慮に入れて、待合所のデザインを選定する。設置箇所は、バス停の利用者数や降雪時の付近の状況を考慮し、決定する。

また、施設設置に併せて、地域と連携した施設の除雪等維持管理を検討する。

設置概要

設置箇所 6箇所を予定

2. 1. 2 バス停留所の設置

簡素な作りとなっている既存のバス停留所を、デザイン性が高く、分かりやすい停留所へ入れ替える。

運行路線が郊外地区を走るため、電力確保の関係からバス停に街灯が無い箇所が多い。ソーラー発電式のバス停を導入することにより、電力の配線をすることなく夜間の照明を確保し、バス停の視認性と、防犯上の安全性の向上を図る。

また、停留所の設置に併せて、地域と連携した施設の除雪等維持管理を検討する。

設置概要

設置箇所 30基を予定

機材構成 バス停の上部にソーラーパネル、下部に電源ボックスを配置

バス停の標識・情報板等を点灯する

メンテナンスの容易さから電気二層式コンデンサを使用

設置写真



2. 2 車内アナウンスシステムの整備

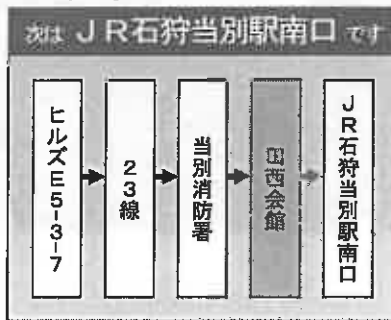
当別ふれあいバスで運行している車両には、バスの降車を知らせるブザーは付いているが、次のバス停のアナウンスは運転手が口頭で行っている。この方法は運転手の負担が大きいこと、また、案内漏れの可能性が高いことから、音声による案内システムを導入する。音声については、録音方式と音声合成システムの双方で検討する。

バス車内にモニターを設置して、音声に合わせて停留所名等を表示できるように整備する。音声と併せて停留所付近の施設情報や乗換情報を表示することで、施設のアクセス向上やバス・JR間の連結の強化を図る。また、広告や地域のイベント情報を発信することで、バス社内を媒体とした、地域コミュニティ活動の向上を図る。

設置概要

設置箇所	バス（4台）の車内前方に設置
機材構成	音声案内制御装置、映像表示制御装置、映像表示液晶モニター 音響設備、音声発信操作スイッチ
情報制御方法	運転手側のスイッチにより音声を流す スイッチと連動して、液晶モニターに停留所情報を表示 それ以外は、路線情報や広告等を表示
音声	録音であれば、肉声録音の後、デジタル変換し編集 音声合成システムであれば、合成音声をCDに録音
音声案内情報	バス停の降車予告、フリー区間案内、広告（有料、参加事業者は無料）
映像案内情報	バス停の降車予告、路線情報、広告（有料、参加事業者は無料） 地域のイベント告知など

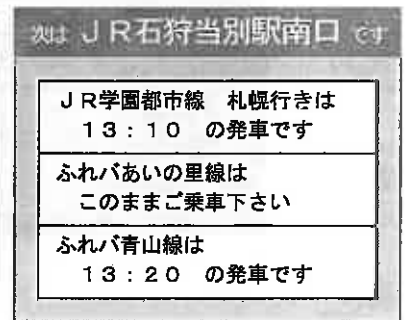
イメージ図等



次停留所＋路線情報



次停留所＋広告



次停留所＋乗換案内



次停留所＋イベント情報



導入写真

2. 3 公共交通情報提供システムの整備

当別ふれあいバスは、全路線でJR石狩当別駅が起終点となっていることから、同駅にある自由通路（町道）「当別駅南北連絡線（パブリック通り）」及び同駅南口に隣接している「当別赤れんが6号（ふれあい倉庫）」に、バス・JRの発着時刻や運行状況などをモニター等で発信する情報提供システムを整備する。

バスの利用しやすさの指標の一つに、交通機関を乗り継ぎやすさを表す「インターモーダル」があり、情報提供システムを利用することにより、JRとバスの乗り継ぎ、またバス同士の乗り継ぎを判りやすくして、乗客の利便性を図る。

費用の面で可能であれば、情報提供システムをネットワーク化して、情報の更新を容易にして、情報の速報性を高める。

設置概要

設置箇所	2箇所を予定、全て屋内設置
機材構成	大型液晶モニターと制御用機材、外部制御用配線
情報制御方法	外部からのネットワーク制御と単独制御の両方を検討 基本は時間で画面を更新、タッチパネルで制御も可能とする
表示情報	バス及びJRのダイヤ、乗り継ぎ情報、バス路線図 町内イベント情報、広告（有料、参加事業者は無料）

参考写真



3. 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供 (6,100千円)

3. 1 モビリティマネジメントの実施

3. 1. 1 小中学生向けモビリティマネジメント

小中学生を対象として、社会学習の一環として総合的な学習の時間や社会科教育の中で、「交通すごろく」や「交通日記」の作成による交通行動を再認識や、二酸化炭素排出量の違いについて環境学習を行う。家庭での記載を呼びかけ、家族とのコミュニケーションを中心に興味を持たせる手法を取り入れ、保護者にも内容が伝わることを期待する。

また、ラッピングバス事業と併せて、公共交通への理解を深める。

実施概要

実施対象	当別町内小中学校
実施内容	交通すごろくの実施（小学校低学年） 交通日記の作成（小学校中学年～中学生）

3. 1. 2 大学生向けモビリティマネジメント

北海道医療大学の新生を対象に、自動車に関するデメリット等の情報を与え、自動車免許取得に関するコミュニケーションアンケートを実施して、自発的な行動変容を期待する。当別ふれあいバス参加事業者に北海道医療大学が含まれており、路線も大学を起終点とする路線が含まれていることから、積極的な利用を促す。

実施概要

実施対象	北海道医療大学
実施内容	新生オリエンテーションにおけるアンケート バスマップを利用したバス利用に関するガイダンス

3. 1. 3 住民向けモビリティマネジメント

公共交通の利用者を増やすには、現在車を利用しているが公共交通でも日常行動を行うことができる「転換候補層」へ訴えることが効果的とされている。その手段としてトラベル・フィードバック・プログラムを実施する。

具体的には、住民に対してバスの路線情報やJRへの乗換情報、自動車のデメリット等の情報を提供する「事実情報提供法」や、アンケート等を用いて自動車を利用しない行動を住民自身が立案する「行動プラン法」を実施する。

実施概要

実施対象	町民
実施内容	バスマップやニュースレターを用いた「事実情報提供法」 アンケート等を利用した「行動プラン法」

3. 1. 4 ニュースレターの発行

住民に対して公共交通への理解を深めてもらうには、事業の状況や公共交通の重要性に関する情報を発信する必要がある。そこで、事業実施期間は定期的にニュースレターを発行し、公共交通への理解と認知度の向上を図り、自発的な公共交通への行動変容を促す。

実施概要

実施対象

町民、町広報誌と一緒に配布

実施内容

年4回のニュースレターの発行、A3版両面刷り2つ折り

3. 2 BDF回収システム導入

当別ふれあいバスは、BDFによる運行を行っている。運行事業者の(有)下段モーターズが単独で導入しており、廃食油の回収は下段モーターズが独自で行っている。当別町でも環境対策課が廃食油の回収を始めたことから、多くの回収拠点を設置するため、バスの車内での廃食油の回収に取り組む。環境問題から公共交通の理解を深めるとともに、モビリティマネジメントと連携しながら、活用しやすい回収システムの導入を図る。

3. 3 感謝ツアー等利用促進事業

平成18年度に実施した、当別ふれあいバス利用者に対する利用感謝ツアーが大変好評だったことから、感謝ツアーやこれに変わる利用促進事業を企画・実行する。日常的な利用者だけでなく、潜在的な利用者の発掘と、公共交通に親しみを持っていただくことを目的とする。

また、事業利用者に対してアンケートを実施して、公共交通に対する住民の意見を広く募り、今後へ活用する。

実施概要 費用概算 H18 実績 310 千円 (道内日帰りバス旅行、2回開催、60人参加)

3. 4 車両ラッピング・移動展示会の実施

特色のあるバス車両を導入することにより、住民の興味を引き、バスのイメージの向上を図り、利用促進につなげる。既存の乗客だけでなく、潜在的利用者の発掘を目指し、利用者の増加に結びつくことを目指す。一般的には、車体ラッピングは広告目的で行う事が多いが、当別ふれあいバスではあくまでもバスの利用促進のための手段として用いる。

また小中学生を対象に、テーマに沿った絵を募集して、車体へ描いたり車内に掲示する移動展示会を一定期間開催することで、子供がバスに興味を持つきっかけとして、小中学生向けのモビリティマネジメントと併せて、利用促進を図る。

実施概要

費用概算

ラッピングバス1台 800千円 (見積り無し)

イラスト車体マグネット1枚 10千円

3. 5 交通マップの作成

バスの利用促進を図るため、バスの路線図・時刻表を作成する。持ち運びやすいサイズで作成して、他の交通機関の乗り継ぎ情報を記載し、公共交通の活性化を促す。ダイヤ改正に併せて作成し、全町に対してバスの情報周知に活用する。

作成概要

作成様式・部数 A3板8つ折り両面刷り、4色カラー、10,000部
配布箇所 全戸配布、バス車内、応援券販売所

4. 調査・研究等 (3,500千円)

4. 1 OD・アンケート調査等事業

4. 1. 1 パーソントリップ調査

住民の交通移動手段に関する調査を実施して、交通手段に対するバスの割合や現状を把握し、バスに移行できる潜在需要層を発掘する。

平成18年の「当別町コミュニティバス利用促進協議会」での調査や、第4回道央都市圏パーソントリップ調査等の資料を活用しながら、バス利用の実態を調査する。

調査概要

調査区域 町内全域、ただし平成18年度実施の調査区域は外す

4. 1. 2 OD調査

実際にバスを利用している乗客の路線別のOD量を調査する。前述の「当別町コミュニティバス利用促進協議会」でもOD調査を実施したが、今回は無料チケット利用者の利用実態も調査して、運行コストの改善と利用実態に合った運行を目指す。

調査概要

調査路線・期間 全路線、全便を夏季・冬季それぞれ平日5日間実施、計10回
調査方法 調査員がバスに乗車して、乗降者数をカウントする

4. 2 物流システム導入調査

町内をくまなく巡る当別ふれあいバスを媒体として、人だけでなく物を運ぶ「物流バス」の可能性を探るため、需要調査を行う。「当別赤れんが6号」の農産物や、「ふくろう図書館」の図書の返却、またはその他の有意義な利用が出来るようアンケート調査等を実施する。

調査概要

調査対象 当別赤れんが6号職員、利用者、農産物提供農家
ふくろう図書館利用者、当別ふれあいバス利用者
調査方法 聞き取り調査とアンケート（当別赤れんが6号関係）
利用者アンケート（ふくろう図書館利用者、当別ふれあいバス利用者）

